

2018 若手・ベテラン研修会レポート

(第4回関東近郊中学生サッカー大会 | N神栖 5/3~5)

(公財)茨城県サッカー協会
審判委員会 指導部

神栖市にて行われた大会へ参加し、前半を若手対象、後半をベテラン対象として審判研修会を開催しました。

(参加審判員) 14名 若手研修会 5/3~4

15名 ベテラン研修会 5/4~5

(参加インストラクター) 29名 5/3~5

【実技】

87試合を審判員に主審として割当て(一人当たり最大4試合)、その全ての試合にインストラクターを配置して試合直後に振り返りを実施。各試合で見た課題を次の試合で改善し、それを繰り返すことによって研修期間中のレフェリング技術向上を図り、更に審判員自身がその技術向上を実感できるように考えて実施しました。

また、実際にレフェリングするだけではなく、他の審判員のレフェリングを見ることも研修の一環として大切だと考えています。そのような観点から、4名のインストラクター(うち2名は1級審判員)には1試合ずつ主審も担当して頂きました。残念ながら全ての研修審判員が見ることが出来るように割当を組むことが出来ませんでした。目の当たりにした研修審判員にとっては良いお手本になったと思います。



【座学】

◎若手研修会 5/3

近間雅昭(若手育成担当リーダー)

- ・会場移動を自分で他の審判員へお願いするなど自立できていたか？
- ・自分の考えを積極的に発言しよう！



川俣秀(強化担当/J2主審)

・「気づき」について

審判員を4グループに分けてレフェリーとしてゲームをマネジメントするうえで重要な「気づき」をテーマにディスカッション。インストラクターも各グループにオブザーバーとして参加し、最後は各グループの発表を行いました。

- ・映像クリップ(2018スタンダードから抜粋)

大倉直哉(若手育成担当)

・若手審判員へ伝えたいこと

自身の過去に失敗したと感じている実体験から、チャンスを掴む為の心構えなどについて若手審判員の今後に活かすことが出来る内容の講義でした。



【座学】

◎ベテラン研修会 5/4

岡部拓人(強化担当/国際主審)

- ・ベテランの強みとは何か？
- ・判定の見立てについて
- ・なぜ審判員を続けているのか？



ベテランの強みとは何か意見を出し合い、審判員としてだけでなく社会人としての経験からもくる落ち着きや対応力などがあがりました。それらを生かしながらフィールド上での選手等との相互理解のためにという観点から改めて判定を見直しました。「不用意に」、「無謀に」、「過剰な力で」はそれぞれどのような事かを、ビデオクリップと照らし合わせながら整理していきました。

また、最後に「なぜ審判を続けているのか?」、「審判を続けてきて失敗したことや良かったこと」などを3グループに分けてリラックスした雰囲気でお互いを知る上でも良い機会となり、ベテラン審判員同士の繋がりも深まったと思います。



【まとめ】

参加審判員は、若手・ベテランともに積極的な姿勢で取り組み、研修会で何か掴もうという意気込みを感じました。また、昨年は一部の試合でインストラクターを配置することが出来ませんでした。今回は多くのインストラクターのご協力により研修審判員が担当した全ての試合を指導することが出来ました。

若手審判員は、レフェリング技術については個々に差はありますが、各々課題を持って取り組んで技術向上に努めていました。また、自立や主体性といったレフェリング以外の部分についても近間若手育成担当リーダーの指導の下で意識をもって取り組んでいたことは今後に向けてポジティブに捉えています。

ベテラン審判員については、若手審判員に負けず劣らずの向上意欲には目を見張るものがありました。審判育成という「若手から1級審判員を」ということにどうしても目が行きがちでベテラン審判員のブラッシュアップの機会は現状限られていますが、ベテラン審判員の活躍無くして県内津々浦々の試合を成立させることはできませんし、今回のベテラン研修会の開催意義を改めて感じました。

これからも、茨城県審判委員会として各部門と調整を図りながら研修内容の充実に努め、審判員のレフェリング技術向上のサポートをしていきます。

(文責:指導部長 西尾)